

にぎわい

～日本海にぎわい・交流海道ネットワーク通信～ 平成17年1月号

Vol. 79

会員だより

- 青森のミナトからの「雪だより」・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 「能代工業高校バス部」56回目の全国制覇！
でも、「能代」という名前が？・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 酒田雛海道 ～いにしえのお雛さまと素敵な出会いが待っている～ 5
- 指定管理者制度採用で、港湾のさらなる賑わいを！ 6

【青森県】

●青森のミナトからの「雪だより」



青森市は日本海と太平洋をつなぐ津軽海峡に通ずる陸奥湾に面し、作家司馬遼太郎氏が「北のまほろば」と呼び、縄文のいにしえに豊かな地であったことを伝える「三内丸山遺跡」でご存知のかたも多いかと思います。また、明治41年から本州と北海道を結ぶ青函連絡船が就航し、北海道への玄関口として当地を訪れた方もあるのではないのでしょうか。

今回は青森港のウォーターフロント地区で行われる「AOMORI ウィンターフェスティバル 2005 第27回青森冬まつり」と、「青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸 ファン感謝デー」についてご紹介いたします。

●ウォーターフロントで冬を楽しむ・・・青森冬まつり

「青森冬まつり」は、冬季における観光振興と、雪国ならではの健康で豊かな市民生活の向上を図るため、青森冬まつり実行委員会（青森市、青森商工会議所、青森観光コンベンション協会）が毎年実施しているもので、本年は2月11日（金）～2月13日（日）に、青森港のウォーターフロント地区にある「青い海公園」を会場に開催されます。

会場となっている「青い海公園」は、青森市の中心市街地内に位置し、特徴ある三角形の建築物「青森県観光物産館（アスパム）」が立地するほか、夏には本市を代表する「青森ねぶた」の制作（ラッセランド）や「安湯みなとまつり」などが行われる、市民憩いのスポットの一つとして

親しまれています。

青森冬まつりは、「雪と遊ぼうスノーランド」をテーマに、この「青い海公園」内に大型ねぶた雪像や雪上すべり台を設置し、また子ども達で賑わう力・技・スピードを競う「ザ・雪王（ゆきおう）」や第15回あおもり雪合戦選手権大会、雪上運動会に加え、今年は新たに「人力そりレース」が加わるなど、市民参加によるスポーツイベントが目白押しとなっています。

また、中心商店街区では「光のプロムナード」が点灯するとともに、会場内の雪像がライトアップされ、ウォーターフロント地区の夜景に彩りを添える予定です。さらに、「AOMORI ウィンターフェスティバル 2005」として、「青森冬まつり」のほか、三内丸山遺跡での「三内丸山冬まつり」や「雪だるま 2005 コンテスト」、モヤヒルズ（スキー場）でのスポーツ大会など、冬を楽しむレクリエーションイベントで市内全体が賑わいます。

青森市は、国内の県庁所在都市の中で唯一豪雪地帯に指定されており、年間8メートルを超える降雪量があります。冬季は外出の機会が減りがちですが、ぜひ楽しい「AOMORI ウィンターフェスティバル 2005」に参加し、青森の「ドカ雪（豪雪）」を満喫してみませんか？詳しくは、青森冬まつり実行委員会事務局（青森観光コンベンション協会）017-723-7211 まで。



●冬の津軽海峡の思い出にひたる・・・青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸



青森といえば青函連絡船での旅行を思い起こされる年代の方も多いと思いますが、往時の懐かしい姿をそのまま鉄道連絡船博物館として保存・展示しているのが「青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸」です。八甲田丸は昭和63年の最後の航海を努めた青函連絡船で、船倉にはホンモノの鉄道車両を展示するほか、操舵室やエンジンルームなども見学で

き、青函連絡船や鉄道輸送の歴史を学べるミュージアムとして平成 2 年にオープンしました。同船の周辺には鉄道車両を船に積み込む「可動橋」や、青森駅から船への連絡階段などが今も残り、青函連絡船在りし日の賑わいが思い出されます。

この八甲田丸で、1月 8 日（土）～1月 10 日（月）に「冬休みファン感謝デー」が開かれ、親子連れなど多くの市民が訪れました。船内では地元愛好クラブによる鉄道模型ショーが行われ、精巧な鉄道模型に目を輝かせる子ども達や、昔を懐かしんで海を見ながら駅弁をほお張る市民で終日賑わいました。また、全国都市再生モデル調査のアンケート調査も行われ、訪れた市民から「周辺に賑わいの拠点を」「青函連絡船を後世に残して」などの意見が寄せられました。

八甲田丸では今日も 1 日 4 回、懐かしい霧笛（エア・ホーン）を冬景色の津軽海峡に向けて響かせています。青森市にお越しの際はぜひお立ち寄りください。詳しくは、財団法人みちのく北方漁船博物館財団 青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸 017-735-8150 まで。



【秋田県能代市】

年末に明るいニュースが飛び込んできました。

●「能代工業高校バスケット部」56回目の全国制覇！でも、「能代」という名前が？

●能代工業高校バスケットボール部

まず始めに、21回、15回、20回の合計56回

これは何の数字かお判りになりますか？

昭和42年の埼玉国体で初めて全国制覇を成し遂げてから37年、能代工業高校バスケットボール部がこれまでにインターハイ、国体、選抜優勝大会(現ウインターカップ)で全国制覇を果たした回数です。

次に、1、4、7、173は判りますか。

これは、NBAサンズで背番号1、4試合出場、7得点、そして身長173cmで2mを越える長身選手の中を縦横無尽に走り回り、鮮烈なデビューを果たしたNBA初の日本人選手田臥勇太さんです。田臥さんは勿論、能代工業高校バスケット部OBで、現在はアメリカ独立リーグABAのロングビーチ・ジャムで頑張っています。この田臥選手のNBAでの活躍は、昨年のインター

ハイ、国体では本来の力を出し切れずに途中敗退していた母校能工バスケ部の奮起を促し、最後の全国大会ウインターカップでの優勝への後押しにつながったものでしょう。



▲「年末のウインターカップで全国制覇56回目を成し遂げた能工バスケ部」
～市内商店街での優勝報告会～

●平成の大合併で「能代」の名が？

今から1300年以上も前のこと、越国守阿倍比羅夫が軍船180隻を率いて蝦夷征伐のため上陸したのが能代港だったと『斎明記』には記されているほか、『続日本記』には、光仁天皇の宝亀年中、渤海国の使臣壺万福等350余人が船10隻に乗り野代（現在の能代）に着いたと記されています。

1600年代、米代川流域の天然秋田杉などの物資集積地として木材受勘定所を設置するなど、日本海側有数の港町として繁栄していたが、二度の大震災に遭うなど、それまでの地名「野代」は野に代わると読まれ、縁起が悪いということで『^{よぐかわ}能代る』の能代に改められた。明治30年頃、無尽蔵と思われた良質な秋田杉の利用開発がなされ、機械製材の技術を導入、明治40年には全国的にも有名な秋田木材株式会社が設立され、文字どおり「木都・能代、東洋一の木材都市」の名声が国内を越え、海外まで及ぶに至った。

このように、古くからの歴史と脈々と培われてきた文化、そして全国的にも知名度の高い「能代」の名を合併により無くしたくない、ずっと将来に渡って残したいと考えている今日この頃です。



▲広大な日本海に面した能代市
海岸線には黒松700万本の風の松原が！

【山形県酒田市】

酒田雛街道 ～いにしえのお雛さまと素敵な出会いが待っている～

江戸時代、西廻り航路の開拓により江戸や大阪との北前船交易で栄えた湊町・酒田。「西の堺、東の酒田」と称された湊町には数多くの豪商が誕生し、現在も鎧屋や本間家の旧宅が往時の面影を伝えています。



▲酒田米穀取引所の附属倉庫として建造され、築百年以上経った今も現役の農業倉庫として活躍している山居倉庫と山居橋

酒田から米や紅花を運んだ北前船は、塩や日用品などのほか数多くのお雛さまを帰り荷として積み、酒田の豪商のもとに運びました。今も旧家に伝わるお雛さまは、享保雛、治郎左衛門雛、古今雛など様々ですが、当時の酒田湊の繁栄を物語るように、非常に贅を尽くしたものが多いと言われています。

早春の酒田では、これら旧家に伝わる由緒あるお雛さまや、地元に古くから伝わる素朴で愛らしい土人形「鵜渡川原（うどがわら）人形」を市内6つの観光施設で展示公開しており、毎年県内外からの観光客で大変賑わいます。今年も、酒田市観光物産館「酒田

夢の倶楽」での旧家に伝わるお雛さまと人形作家・辻村寿三郎氏特別製作のお雛さまの2月1日公開を皮切りに、2月下旬からは本間家旧本邸、本間美術館、相馬樓などでも順次公開し、4月上旬までお楽しみいただけます。また、市内の飲食店では雛祭り期間限定のひな弁当・ひなランチを提供するほか、今年初の試みとして、観光施設周辺の商店街などでもお雛さまを展示して観光客や市民に雛祭りを楽しんでもらおうと取り組んでいます。

3月下旬には豪華客船「飛鳥」による「日本の春一周クルーズ」が予定されており、かつてお雛さまを積んだ北前船が数多く往来した日本海を航行し、酒田の港にも入港します。湊町酒田でいにしえのお雛さまとの時を越えた素敵な出会いが待っています。

また、JR新潟駅～酒田駅間では3月の金・土・日に特別列車「きらきらうえつ」も運行するほか、酒田市内のお雛さま展示施設を巡る観光バスも毎日運行します。

湊・酒田、粋な文化に出会う街に、皆様どうぞお越しください。

問合せ先／酒田市観光物産課 電話0234-26-5759



▲さかたの雛遊び



▲鵜渡川原人形（内裏雛）

【山形県】

●指定管理者制度採用で、港湾のさらなる賑わいを！

平成 15 年の地方自治法改正により、公の施設である港湾施設の管理が公共団体以外の団体でもできるようになりました。これを指定管理者制度といいます。

山形県で管理している酒田港、加茂港、鼠ヶ関港の中で、指定管理者への管理代行を計画している施設は、酒田北港緑地、酒田北港緑地展望台、酒田港交流広場、山形県酒田海洋センター、酒田プレジャーボートスポット、加茂港緑地、加茂レインボービーチ、鼠ヶ関マリナー、マリンパーク鼠ヶ関の 9 施設です。

県による直営管理ではなく、あえて指定管理者制度を採用するねらいは、施設の管理運営を行ってみたいという法人又は団体から創意工夫ある事業計画の提案を公募することで、これまで以上のサービスの向上を図るためです。

管理代行の内容は施設の維持と運営に関することですが、酒田北港緑地、酒田港交流広場、酒田プレジャーボートスポット、加茂レインボービーチ、鼠ヶ関マリナー及びマリンパーク鼠ヶ関については、施設の通常使用許可に関することが含まれます。これらでは条例料金の範囲で指定管理者が利用料金を設定し、その一部又は全部を指定管理者自らの収入とすることができる仕組みを考えております。これにより経営センスを存分に発揮していただくことが期待されます。



▲指定管理者への管理代行が計画されている “ 酒田港交流広場 ”

酒田北港緑地展望台と山形県酒田海洋センターの場合は条例料金自体ありませんが、施設運営の中で、例えば港湾や船舶等の展示関係で独自の企画提案をすることが可能になります。

一方、リスク管理や責任分担は、施設の管理保守、安全点検、衛生管理及び小規模修繕は指定管理者の責任になります。事故等による施設の損傷及び被災者に対する責任は、第一次的責任は指定管理者にありますので、万が一の場合、被災が最小限となるよう迅速かつ最善の対応をとることが必要です。勿論、施設に対する包括的な管理責任は山形県にあります。

指定管理者への管理移行スケジュールは、平成 17 年の 6～7 月頃に希望者を募集、10 月頃に指定管理者決定、18 年 3 月までに管理代行に係る協定締結。管理代行期間は平成 18 年 4 月 1 日からおおむね 3 箇年を予定し、現在準備を進めているところです。



酒田港を一望できる“酒田北港緑地展望台”
一度いらしてみたいかが？



▲「みなとの博物館」として親しまれている“山形県海洋センター”
海に関する知識を深めよう！

【編集・問い合わせ先】

日本海にぎわい・交流海道ネットワーク事務局

国土交通省 東北地方整備局 港湾空港部 広報官 千葉忠樹

TEL 022-716-0001 FAX 022-716-0017

E-mail : chiba-t82ab@pa.thr.mlit.go.jp